

麻しん（はしか）について

1 症状等

感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症すると言われています。

2 感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われており、感染する時期は、発症の 1 日前から解熱後 3 日後までとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

また、現在、1 歳(第 1 期)と小学校入学前年度(第 2 期)に、MR ワクチンの定期予防接種を実施しており、予防接種をしていれば感染するリスクは少なくなります。なお、本市では第 1 期では 99.3%、第 2 期では 93.3%の方が MR ワクチンを接種しています(平成 28 年度実績)。

3 潜伏期間

約 10 日～12 日間

4 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

5 麻しんの報告数

(1) 過去 5 年の報告数（診断日で集計）

| 年次 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 | 平成 28 年 | 平成 29 年 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|----------|
| 名古屋市 | 1 | 20 | 0 | 1 | 1 |
| 愛知県(本市含む) | 25 | 46 | 0 | 5 | 1 |
| 全国 | 229 | 462 | 35 | 165 | 189(速報値) |

(2) 沖縄県での発生状況

平成 30 年 3 月 20 日、沖縄県内で旅行客が麻しんと診断され、この旅行客と接触歴のあった者や同じ施設を利用した者を中心に、断続的に沖縄県内で麻しん患者の発生が続いております。4 月 10 日時点では 38 名の患者が沖縄県から報告されております。

6 留意事項

麻しんを疑う症状があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い早急に受診してください。また、受診の際は、周囲に感染を広げないよう公共交通機関の利用は避けてください。